

令和2年度第1回 香美市移住定住推進協議会 会議録

令和2年7月10日（金） 10時～12時
香美市役所3階会議室

◆会議の出欠

出席委員 11名 欠席委員 5名

◆取り組み状況報告

1. 高知県産業振興推進部移住促進課より、取り組み・目標発表
2. 香美市定住推進課より、取り組み・目標発表
3. NPO法人いなかみより、取り組み・目標発表

◆提案及び意見交換

【委員】

アフターコロナを見据えた取り組みについて、検討していることがあれば教えてほしい。

【定住推進課】

『Zoom』というアプリケーションを使用したオンラインによる相談体制を整えている。また、オンラインによる移住相談会についても、高知県や広域の取り組みの中で開催が決まっており、本日の夜、高知まんなか協議会において移住相談会を開催することとしている。その他新しい試みとして、これまでバスツアーにより開催してきた移住体験ツアーを、オンラインや動画などで企画するよう検討を進めている。

加えて、コロナ対策の事業として香美市にも予算が下りてきており、光ファイバーの未整備地域の解消について、前向きに検討を進めている。

【高知県】

現地での対面による移住相談会が開催できない中、もっと気軽に開催できるオンライン相談会をこまめに行っていく。またオンラインによる相談だけで終わらず、現地案内や対面相談につなげ、組み合わせていく必要がある。『高知家で暮らす』のホームページもリニューアルし、状況が落ち着いたら高知に足を運んでもらえるよう、高知の状況や良さを積極的にアピールできるよう企画している。

【いなかみ】

今後IT関係に強い方が移住に向けて動いてくる可能性が高く、自分がやりたいことを自己実現できるような場が必要。

【会長】

商工会としても、ワーケーションの先進地である三好市に視察に行くなど、今後実践できる事業に取り組んでいく。

【委員】

これはお願いだが、今後生活様式が変わるのでオンラインを取り入れた施策をどんどん取り入れてほしい。そして、都会では田舎暮らしが注目され、リモートにより地方にいても仕事ができるということが認知され、環境が良いところで仕事をしたいというニーズが増えている。香美市としても市の良さをアピールし、ニーズに応えられるようにしてほしい。

なお、いなかみの年間目標について確認だが、13組という目標は毎年クリアしており、もう少し大きな数字を掲げるべきでは？

【いなかみ】

予算的な問題もあり、人員を増やすなりの対応ができれば目標を上げることも考えられるが、現行では適正な目標だと思う。

【定住推進課】

香美市移住定住促進計画第3期アクションプランでは年間の移住者目標を23組と定めており、目標達成のために連携して取り組みを進めていきたい。

【副市長】

現在物部町大栃に1部屋ある世帯向けの移住体験お試し住宅について、ニーズが増える見込みがあるか。

【いなかみ】

これまでコロナの影響で問い合わせが減っていたが、今後都会からの希望者が増えてくる可能性はある。現在運用している1部屋は8月末まで入居があり、その後また予約が入っている状況。物部という立地はお試しとしては遠いかもかもしれないが、新たに部屋数が増えるのであれば積極的に活用してもらえるように努力していきたい。

【定住推進課】

市としては、物部への移住者を増やしていくことを一つの目標としているので、セトル成矢に世帯向けのお試し住宅を2部屋増やすよう検討していく。

【委員】

不動産の動きにもコロナの影響があり、物件の問い合わせが激減している。工務店等からの問い合わせも少なく、新築についても減っていると感じる。先行きが分からず収入が保てるか不安があるのだと思う。

最近やっと物件が動き出したが、売り物件を出したいという所有者からの問い合わせが多い。その中には市街化調整区域内の物件もあるが、都市計画の制約があり、取り扱いが難しい。手続きの簡素化についてお願いしたいところだが、香美市については現在のところ推進する予定はないとの回答だった。県内外から多くの方に移住してきてもらいたいと期待しているところだが、そのハードルの一つである都市計画の開発許可申請について、市で取り扱えるようしてもらえないか。

【市長】

現場としてもどかしい思いを抱えているということは承知している。開発の許認可につ

いて、市で行うことが望ましいという意見がある一方で、農地を守るという観点などから考えると、非常に賛否が分かれる問題でもある。現在都市計画のマスタープランを策定中で、市民の方々からも多くの意見をいただいている。開発の許認可を市として取り扱うということは、その業務を行うことのできる人材を育てる必要があるということでもある。県と意見交換をし職員のスキルアップを図りながら、将来的には、その業務を受けこむことのできる体制を作っていきたい。

仕事・住宅・教育・伝統文化・自然・交通を含めたインフラなど、いろいろな面で、魅力的な地域だと発信できるような町にする努力を続けていく。一方で、国に対しても、地方をもっと重視してもらおうよう声を上げていかなければならない。今後オンライン化やテレワークなどはどんどん進んでいく。市としては、サテライトオフィスに力を入れていきたいと考えている。商店街の中で使用されていない店や、古民家を改修しての整備を念頭に、県の協力もいただきながら取り組んでいきたい。

また、光ファイバーの整備も進めなければならない。多少無理をしてでも、必要とされるところには光通信ができる環境を整えていけるよう努力していく。中山間地こそ光通信が必要。

さまざまな努力が求められるが、新たな人の流れができるよう、県にもご協力をお願いしながら、移住定住を促進していきたい。

【委員】

コロナの影響で人の動きが少なく、個人的には、移住者目標（市23組・いなかみ13組）は厳しいのではと感じている。社会福祉協議会で取り扱っている生活資金のコロナ特例貸付には150件を超える申し込みがあり、これは通常時であれば10年分にあたるくらいの件数。まだまだアフターコロナというには程遠く、将来のことも大切だが、本年度はじっくりと地固めをすべき年になるのではないか。

【委員】

移住体験お試し住宅が香北町吉野と物部町大栃にあるが、どちらもマンションタイプ。移住希望者からは戸建ての希望が多いと思うが、戸建て住宅のお試し住宅はできないか。

また、空き家改修費等補助金についても教えてほしい。

【定住推進課】

市として、空き家を借り上げるなどしてお試し住宅を運用することは、維持管理などのこともあり現在のところ考えていない。まずは大栃のセトル成矢に2部屋増やすことを目指したい。

空き家改修費等補助金は補助率2/3で補助限度額が121万6千円。要件として、空き家バンクに登録されている空き家であることや耐震化ができていないことなどがある。また、補助を受けた物件は向こう10年間移住者向けの物件として空き家バンクに登録するといった制約がある。

【委員】

移住してくる方だけでなく、いま現在香美市に住んでいる人たちに目を向け、より良く暮らせるような施策をお願いしたい。

【市長】

委員の言うとおりに、この町を、いま住んでいる方のためにより良くしていくということは基本的なスタンス。あくまで香美市民の皆さんが暮らしやすくなるように、さまざまな事業を推進するわけで、移住を考えている方のために整備するわけではない。結果として、移住希望者に向けても本市の魅力をアピールできるようなまちづくりをしていきたい。